

議会だより

第522回西ノ島町議会12月定例会一般質問(要約)



吉田 歳造
議員

隠岐島前病院の 旧黒木小学校への移転について

昨年度策定された総合福祉施設体制整備基本構想では、福祉介護施設や病院を旧黒木小学校敷地内に移転、併設する構想が出された。これは、人員の効率化や医療介護の連携強化、地域に開かれた医療介護施設の面から重要と考えるが、この構想には課題もある。

1つ目は、移転先の自然災害に対する安全性の問題。2つ目は、島前病院の建設資金の問題。3つ目は、老朽化が進む介護施設「本郷」の問題。そこで、この建替え、移転構想について、町長がどのように受け止め、どのような課題を想定しているか伺う。

回答 町長

昨年10月、島前病院や介護福祉事業所など最前線の皆様と議論を重ね、「西ノ島町総合福祉施設体制整備基本構想」を策定し、公表した。

この構想は、施設の老朽化やマンパワーの不足といった現状を踏まえ、将来を見据えた持続可能な介護福祉サービスの在り方について検討し、本町における概ね20年後を想定した施設体制をまとめたものである。この中で、複合的な介護福祉施設の整備は隠岐島前病院との医療連携を理想としており、本町にとって望ましい方向として将来的な移転・集約を視野に入れたものとなっている。

しかしながら、隠岐島前病院の在り方については、設置主体である隠岐広域連合が検討の上、方針を決定されるものである。私としては、内航船のアクセスも良い旧黒木小学校跡地への移転・集約化が、島前地域全体における持続可能な医療・福祉体制を実現するためにも最善な選択肢であると信じており、その実現に向け、隠岐広域連合並びに構成団体



である海士町・知夫村に働きかけていく考えである。

また、建替移転が検討される際には、議員ご指摘の自然災害対策や建設資金等の課題も検討されるものと思うが、これらに加え、医療需要の動向を踏まえた事業規模の見極めや医療提供体制を維持するための医療従事者確保が課題になると考えている。

小規模多機能型居宅介護「本郷」については、基本構想に基づき、旧黒木小学校跡地に高齢者住宅を含む複合的な介護福祉施設として整備する方向としている。今年度は、介護福祉施設の再編、整備手法やスケジュール等を具体化するための基本計画の検討を進めている。基本計画策定後は、小規模多機能型居宅介護

施設等の整備に必要な財源確保に向け、国や島根県との協議を進め、整備実現に取り組んでまいりたい。



亀澤林大朗
議員

「大人の島留学制度」について

町民から「大人の島留学生を受け入れている効果が分からない」「介護など人手不足分野にも来て欲しい」との声が寄せられ、制度の狙いの周知不足や運用面の課題を感じている。留学生側も自身の思いと島民の期待とのずれに戸惑う例がある。この制度の成否は双方が制度の目的を理解し共有することが重要である。そこで以下の3点について町長に伺う。

①島留学制度の狙いと、町として期待する効果について

②「成果が見えない」「人手不足の現場にも来てほしい」という声を、町長はどのように受け止めておられるのか。

③募集の段階から、福祉や介護など人手不足分野に関わる人材を積極的に募集する仕組みを導入してはどうか。

回答 町長

①島留学制度の狙いと、町として期待する効果について

大人の島留学制度は、端的に言えば関係人口拡大に向けた施策となる。同時に、大人の島留学生という関係人口の繋がりを、地域の未来の担い手となるよう育んでいくことを狙っている。これまで西ノ島を知らなかった若者たちに、1年間の生活を通じて、この町で暮らすことを具体的な選択肢として提示していく。また、結果的に町外での暮らしを選択する場合でも、町で暮らす同期生に会いに来る、親しくなった町民の方との旧交を温めに、再びこの町を訪れるような関係づくりが必要だと考える。

議員のご質問に「西ノ島ファンの育成」という言葉があったが、私も同感である。

②町民の声に対する受け止めについて

令和4年度から始めた大人の島留学は、3年間で30名が卒業し、そのうち15名が現在も町に留まっている。令和6年度卒業生8名は地域おこし協力隊として役場を中心に活動し、それ以前に卒業した7名は町内の民間事業所で活躍しており、若者定着に向けた導入策として、3年間で20代の若者が15

名も町に残るといふ実績を上げた取り組みはこれまでに無く、率直に嬉しく思っている。町民の支えによる、居心地の良い環境が作られていることがこの結果につながっていると思っている。また、この制度は特別交付税を活用し、町の自主財源の負担なく若者定着に向けた取り組みが進んでいることも大きな成果である。

留学生、卒業生の多くが飲食店や宿泊施設等でアルバイトをし、人手不足の一部解消にも貢献していると認識している。「成果が見えない」との声には、広報等を通じて更なる周知を図っていく。

③人手不足分野への募集拡大について
住居の確保も進んでおり、来年



度以降、受け入れ人数を増やす考えである。既に来年度の募集活動は終了し、島留学生と受け入れ先となる事業所とのマッチング次第ではあるが、ご質問の趣旨を踏まえ、人手が足りない分野での受け入れについて検討を進める。

島留学生は都市部からやって来た20代の若者で、現在の雇用情勢を鑑みると、どこでもやっていける人材だと思う。彼らが生まれ故郷を離れ、あえて離島である本町にやってくる理由は島で暮らし、働くことを通して、最前線の現場でまちづくりを担えるところにある。チャレンジできる環境を用意し、地域がそのチャレンジを支える姿勢を見せることが若者を惹きつけているからであり、こういった地域こそが若者が定着する地域になると考える。もし仮に、地域が島留学生を1年間のアルバイト、単なる労働力と見なせば、この事業の魅力は途端に色褪せていくものと考えている。

他の分野での受け入れにあたっては、一定の公益性を加味しながら、この事業の魅力を失わない形で訪れた若者が主体性を持って活動できる形での受け入れを行っているよう、検討を進める。



《町議会12月定例会の概要》

12月8日(月)

◆本会議 ※傍聴者6名

- 町長諸般の報告並びに提案理由説明
- 議長諸般の報告
- 一般質問(2名)
- 議案説明(議案24案件)

12月9日(火)

◆本会議 ※傍聴者0名

- 質疑・討論・表決
- (24件全て原案どおり認定・可決)
- 閉会中の継続調査等の申出(了承)

※議決の一覧は西ノ島町ホームページをご覧ください。

